



笑顔の効果

校長 橋本 滋

校庭の木々の緑も一段と深まる夏の始まりの6月を迎えました。過日の運動会には大勢の皆様にご来校いただき、子どもたちの一生懸命な演技をお見せすることができました。子どもたちにとって保護者、地域の皆様の前で演技を披露することは喜びであり、大きな自信と達成感を得ることができたと思います。ご声援・ご協力ありがとうございました。

また、入学してまだ2か月余りの1年生でしたが、可愛らしい中にも立派な態度で様々な種目、演技に参加してくれました。その陰には、各ご家庭での励まし等、支えがあつてのことと改めて感謝申し上げます。また、高学年にとって運動会は、各係での働きぶりも大きなウエイトを占めています。今年も5年生、6年生ともよく働いてくれました。特に6年生の意識の高さとリーダーシップぶりは立派でした。このような積み重ねが後輩から尊敬される6年生をつくっていくのだと思います。6年生のこれからの活躍に期待し、見守りたいと思います。

さて話は変わりますが、過日、「百ます計算」で知られた陰山英男さんが学力向上について、インタビューに答えていました。その中に、「お母さんの笑顔が大事」というものがありました。陰山さんは、オリンピックで活躍した選手たちのお母さんがどんな風に子どもと接してきたかを知りたいと思い、吉田沙保里さん、福原愛さんのお母さんをはじめ、いろいろな選手のお母さんに聞いたそうです。それによるといずれの方も「笑顔で接した」という答えが返ってきたそうです。

選手たちのお母さんは、成績に一喜一憂するのではなく、笑顔を絶やさないようにして、「子どもの気持ちをいかに楽にするか」ということを心がけていたとのこと。そして選手自身も、みんな明るく、笑顔に屈託がないのはご存じのとおりです。

陰山さんはこのインタビューをとおして、「ああ、人間の力を発揮させる根源は笑顔なんだ。」と実感したそうです。さらに、記者の「なぜ笑顔が大事なのでしょうか」との問いに答えて、「人間の集中力のもと、幸福感や安心感なんです。お母さん自身が笑顔で幸せそうにしていると、子どもは安心して、落ち着いた精神状態で物事に取り組みます。するとしっかりと集中して、力を発揮しやすくなるのです。私はこれまで色々なお子さんを見てきましたが、本当に伸びる子のお母さんって、朗らかで、おっとりしていますね。セカセカしていません。」
「逆に、必死になっているお母さんは、しかめっ面で、どうしてもイライラしてしまう。そうすると、家族や学校とのトラブルも起きやすくなります。子どもの成長にとっては、単に親が一生懸命で、教育熱心であればよい、ということにはならないのです。」このように述べていました。

子どもとの関係は毎日です。時には笑顔でいられず、イライラしてしまうこともあると思います。でも子どもは敏感です。子どもの気持ちとしてこんな記述もあります。「ぼくは、お母さんの小言が始まるとできるだけ違うことを考えて、できるだけ聞かないようにしている。だってどうせ本気で言っていないから聞く意味なんかないよ。」大人は、小言を止めて、本気で気持ちを伝えなければなりません。と述べていました。

また、学力向上のためには、基本的な生活習慣の形成が関係しているとの結果が示されています。本市がすすめる「早寝・早起き・朝ごはん」に象徴されるように、その学年に応じた基本的な生活習慣を身に付けることが、学習の効率を高めたり、友達と上手に生活したりする力となります。あいさつや返事、身の回りの整理整頓、時間を守って生活する（朝起こされなくても自分から起きる）を確実に身に付けさせ、「笑顔で接する」を基本にすることがよいようです。

